

## スギザイノタマバエに関する研究 (V)

## — 被害木にあらわれる斑紋数(2) —

宮崎県林業試験場 讃 井 孝 義

## はじめに

スギザイノタマバエによって材の中の年輪にそってあらわれる斑紋(以下stain)の数について前報で西都市の調査例を報告した。<sup>3)</sup>その後、えびの市において同様な調査を行ったので報告する。調査にあたってえびの営林署各位、吉山木材の関係各位に御協力いただいたので感謝の意を表する。

## 調査方法

えびの市末永のスギ35年生林分で計7本を伐倒し、1 mおきに厚さ4 cmの円板を3枚とり相い接する面は片側だけ、すなわち4断面を調査した。stain は年度毎に集計した。

## 結果と考察

材中にあらわれる stainの年度毎の集計を図-1にかかげた(図-1)。図によれば前報の報告のようなきれいな曲線はえられず、可成り増減をくり返しているようであった。この林分は35年を経過して平均直径は15cm前後であり、ここ10年くらいは年輪巾がせまく、stain だけがよく目につく。この林分の被圧木では、stain が密にならんで円周をなしているような感じであったが、年輪巾が狭くて調査不可能であったので図には入っていない。このような例を写真-1にしめた。これは北諸県郡山の口町の例とともに22年生の同

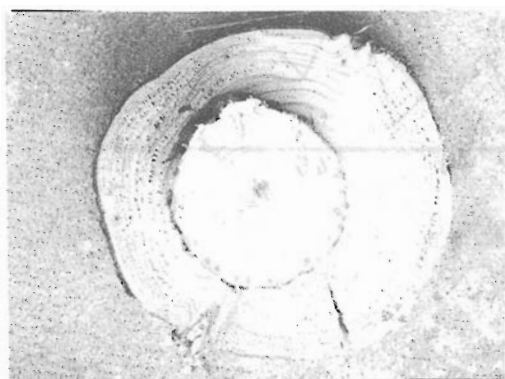


写真-1 被圧木と生長良好な木の stain

一林分で伐採したものである。大きい方は直径15cm、小さい方は6 cmであり、小さい方にはstain がたくさん並んでいるが、大きい円板には極く少いのがわかる。被圧木に stain が出来易いのはわかったが、虫数がふえたから出来るのか生長が悪いから出来るのかは今のところわからない。

川畑<sup>2)</sup>によればスギザイノタマバエによるstainの増加する時期と材積生長の低下する時期は同じ頃である。現在、このえびの市の stain 数調査に用いた円板で樹幹析解を行っているが、たしかに年輪巾が小さくなり始めると stain 数が増加している。(材積生長については後日報告の予定である)写真-1の被圧木や、えびの市で観察した被圧木ではこの2つの現象がはじまる時期にはすでに被圧木であった。したがって被圧された場合スギザイノタマバエが寄生しやすくなるようである。被圧木の場合は年輪巾の減少の方が先におこる。被圧されていない被害木でもやはり生長量の減少がおこっている。この減少の原因についてはわからないが、この時期にはやはり stain 数が増加している。一方年輪巾がそうせまくならないうちに stain 数が増加している例もあるので、被圧されていない木についてはもう少し検討をしてみたい。

井上<sup>1)</sup>(元)によればスギザイノタマバエの寄生によって大径木が枯死するという。筆者の調査地は激害林分で形成層部分の壊死によるまきこみかはなはだしく、樹幹の凹凸が著しいがそれでも枯死木をみることはないし、枯れたという話も聴かない。したがって枯死がおこる場合は何か他に強い要因が働いて、その相乗作用によって枯れるのであろう。スギザイノタマバエ単独で枯れることはないようである。

## 参考文献

- (1) 井上元則：林試研報，78，1～15，1955
- (2) 川畑克己：森林防疫ニュース，Vol. 6(2)，36～37，1957
- (3) 讃井孝義：日林九支研論，29，235～236，1976
- (4) 讃井孝義：宮崎林試業務報告第8号，73～81，1975

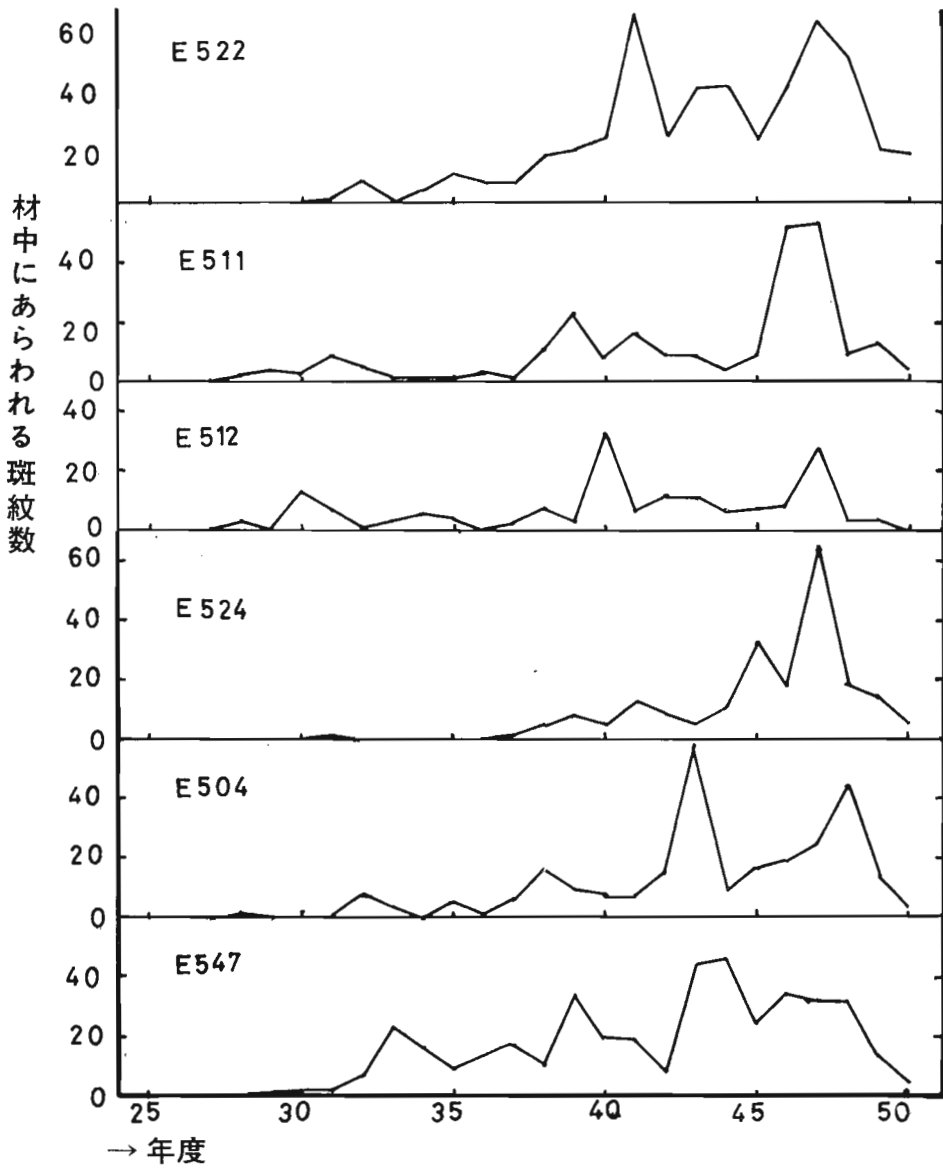


図-1 Stain 数の年度ごとの変動